

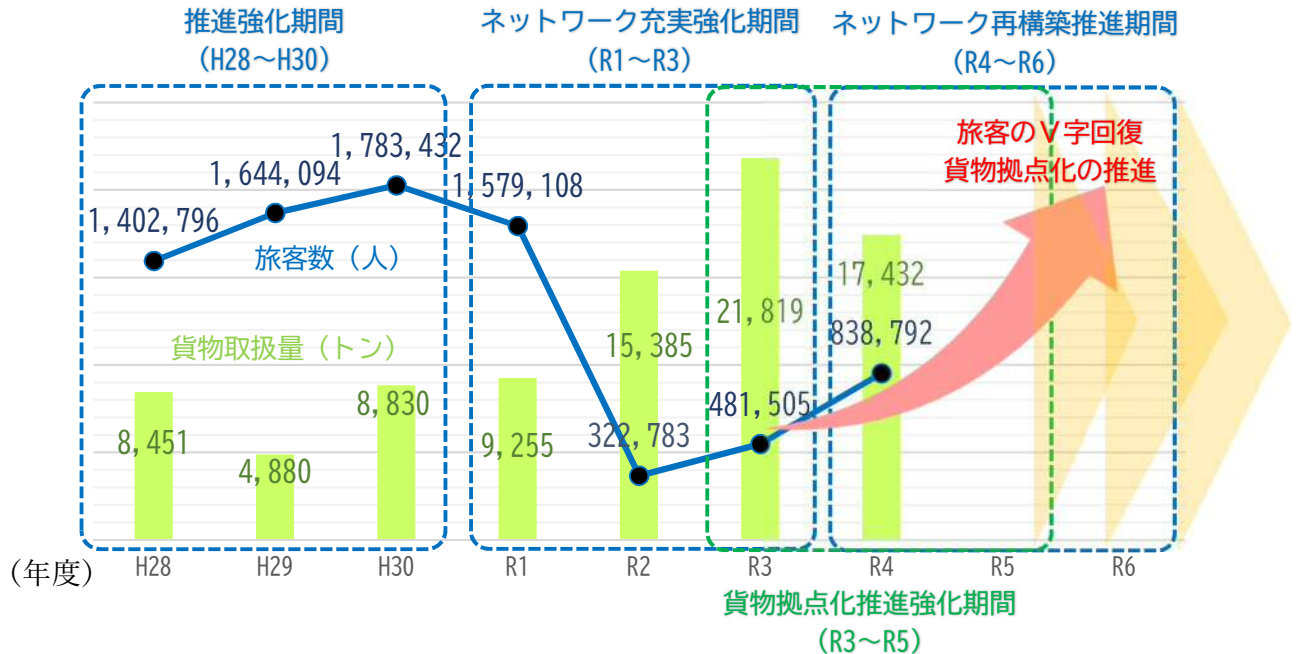
令和5年6月26日
北九州空港機能強化・利用促進特別委員会
(港湾空港局空港企画課)

目次 (報告/説明)

- 1 令和5年度予算案における取組・事業及び、
福岡県との連携について
 - (1) 北九州空港の利用促進における福岡県との連携
 - (2) 令和5年度の実施計画 (旅客、アクセス、貨物)
- 2 スターフライヤーの経営状況について
- 3 ヤマト貨物定期便の就航前飛行訓練について
- 4 国際旅客チャーター便 (韓国・務安線) の就航について

北九州空港の利用促進における福岡県との連携

1 県市の連携強化期間と旅客・貨物取扱量の推移



2 県市の連携強化期間における取組み

(1) これまでの取組み

- ・平成28年度～平成30年度：「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」
- ・令和元年度～令和3年度：「北九州空港のネットワーク充実強化期間」

(2) 現在の取組み

【旅客】

- ・令和4年度～令和6年度：「北九州空港ネットワーク再構築推進期間」

令和4年度からの3か年をコロナ禍からの旅客のV字回復を図る「強化期間」

として位置付け、復便を促進する支援を行うなど、県市協働で旅客路線誘致や路線定着に取り組む。

【貨物】

- ・令和3年度～令和5年度：「貨物拠点化推進強化期間」

令和3年度からの3か年を貨物取扱「強化期間」として位置付け、貨物定期路線の定着と拡充を進めるため、更なる集貨促進、通関体制の構築、上屋機能の強化など、ソフト・ハード両面に取り組む。

令和5年度の取組み（旅客：路線誘致）

福岡県と連携して令和4年度から「北九州空港ネットワーク再構築推進期間」を設定し、旅客のV字回復に向け、既存路線の再開や新規路線の就航による旅客便のネットワーク再構築を目指している。

今年度は、就航する航空会社に対する運航支援の取組みを強化することとし、以下の支援策を実施する予定である。

1 新規路線の就航促進に向けた支援強化

<国際線の運航助成>

国際線の運航助成金の基本単価を拡充し、加えて深夜早朝の時間帯に就航する際には追加加算を行うなど、24時間利用可能である特徴を生かした新規路線の誘致を促進していく。

2 既存路線の就航再開への支援強化

（対象路線：仁川線、釜山線、台北線、大連線、那覇線）

<就航再開における運航助成>

他の地方空港に後れを取ることなく既存路線の就航再開を図っていくため、原則として就航後3年間に限り支援していた運航助成金を見直し、就航再開時には、これまで就航していた期間をリセットし、新たに1年目として助成することにより、早期の就航再開に向けたインセンティブとする。

3 チャーター便の就航促進に向けた支援強化

連続チャーター便の実績の確立によるその後の定期便化に向け、新たに福岡県との連携のもとチャーター便への運航支援を実施する。

令和5年度の取組み(旅客:集客)

(本市観光振興プランと関連した取組を含む)

国内線

<取組方針>

基幹路線である東京(羽田)線の利用促進を図っていく。

そのために、首都圏からの観光需要の取込み、北九州空港圏域における利用促進を強化する。

<主な取組>

1 首都圏からの観光需要の取込み

オンライン環境の整備に伴うビジネス需要の減少分をカバーするために、特に首都圏からの観光需要の取込みを強化する。

(1)北九州空港を起点とした周遊キャンペーンの実施

- ・対象旅行商品(北九州空港往復利用、北九州市内1泊以上)で北九州市及び周辺自治体の観光施設、飲食店等で使用できるクーポンを付与
- ・交通事業者との連携による、福岡市や下関市との間の回遊性向上策の推進(北福連携・関門連携)

(2)航空会社と連携した北九州・関門地域の魅力発信による北九州空港の認知度向上

⇒本市観光振興プラン

戦略IV-2 国、九州観光機構、県、北九州都市圏域、福岡都市圏、大分県などと連携する広域観光推進の体制づくり

(3)旅行商品の造成及び販売支援

2 北九州空港圏域における利用促進

特に北九州空港の特長である早朝深夜便を中心に利用促進を強化する。

- (1)早朝深夜便を中心とした旅行商品への特典の付与
- (2)SNS(LINE、フェイスブック、インスタグラム)の活用による情報発信
- (3)圏域自治体、企業等に対する利用の働きかけ
- (4)イベント等でのブース出展、チラシ配布等

国際線

<取組方針>

ジンエアー北九州＝ソウル(仁川)線の安定化を図ることで、1日2往復への増便を目指していく。

そのために、インバウンド・アウトバウンド双方の利用促進を強化する。

<主な取組>

1 インバウンド需要の取込み

- (1)産業経済局と連携した韓国でのプロモーション及び「旅マエ」情報の発信による北九州市及び北九州空港の認知度向上
- (2)ジンエアーのHP上での北九州路線利用者への特典付与
(対象:個人旅行者)
- (3)韓国のテレビCM(ホームショッピング)を活用した旅行商品の販売支援
(対象:団体旅行者)
- (4)北福、関門連携の枠組みを利用した魅力的な観光ルートの提案

⇒本市観光振興プラン

戦略Ⅱ-4 インバウンドへの戦略的対応

戦略Ⅳ-2 国、九州観光機構、県、北九州都市圏域、福岡都市圏、大分県などと連携する広域観光推進の体制づくり

2 アウトバウンド需要の取込み

- (1)パスポート取得や駐車場サービスなどのキャンペーンの実施
- (2)旅行商品への広告助成などによる販売支援
- (3)大韓航空のコードシェアにより、仁川経由各地へ観光や出張が可能なことをPR
- (4)イベント等でのブース出展、チラシ配布等

令和5年度の取組み(アクセス)

旅客のV字回復に向けた取組みに合わせ、空港アクセスの利便性確保のため、エアポートバスやタクシーのサービスを県市が連携し、継続して取り組む。

1 北九州空港エアポートバス

北九州空港エアポートバスは、航空旅客の4割が利用する主幹交通である。

他の空港と比べて、速達性(小倉駅まで33分)、定時制(自動車専用道路を走行)の高いアクセスであることを利用者に訴求しながら、利便性の更なる向上に努めていく。

① 小倉線(ノスタップ 18、中谷経由11便) 29 往復/日	小倉駅⇔空港	運賃 710 円
② 黒崎・折尾・学研都市線 12 往復/日	黒崎駅⇔空港	運賃 820 円
③ 朽網線 27 往復/日	朽網駅⇔空港	運賃 420 円

2 福北リムジンバス

早朝・深夜の航空機ダイヤに合わせ、空港と福岡市内(博多・天神)を結ぶバスを運行。

福岡市内⇒空港 1便/日(早朝)	}	福岡市内⇔空港 運賃 2,000 円
空港⇒福岡市内 3便/日(深夜)		

3 ジ アウトレットとの空港アクセスバス

ジ アウトレット北九州を経由し、空港と岡垣方面を結ぶバスを運行。

アウトレット⇒空港 1便/日(土曜のみ)	}	アウトレット⇔空港 運賃 1,000 円
空港⇒アウトレット 2便/日(土曜のみ)		

4 定額タクシー

市の西部方面と空港を結ぶ定額タクシーを運行。

若松区(東部)⇔空港 9,200 円/台	若松区(西部)⇔空港 10,900 円/台
八幡東区⇔空港 7,100 円/台	八幡西区⇔空港 9,700 円/台
戸畑区⇔空港 8,400 円/台	

事前予約制で、市の東部方面と空港を結ぶタクシーを運行。

門司区⇔空港 4,980 円/人	小倉北区⇔空港 3,980 円/人
小倉南区、苅田町⇔空港 2,480 円/人	

5 鉄道によるアクセスの検討について

(アクセス鉄道の新設)

在来線新門司ルート(680億円)、国補助1/3、途中駅や開発等により鉄道需要を見込む
⇒航空旅客数300万人が必要との検討結果により、200万人を超えるまで検討休止
(日豊本線の活用)

AGIより、高速IC下の苅田町域に特急が停車する新駅を設置し、バスで輸送との提言
⇒建設コストを含めた苅田町や福岡県の協力、駅用地やアクセスバスのバス停用地と、乗換経路の整備などの課題。

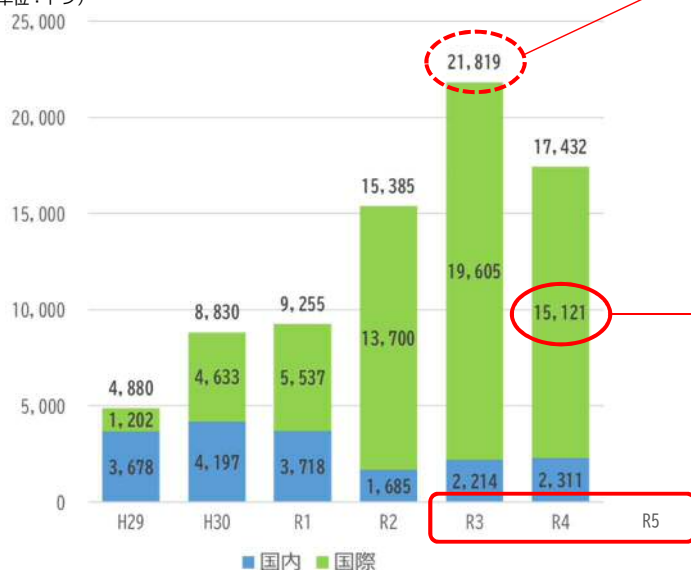
⇒既存空港最寄り駅である朽網駅の活用も含め検討。

令和5年度の取組み(貨物)

令和3年度からの3か年を「貨物拠点化推進強化期間」と位置づけ、県市が連携した取り組みを継続。路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組みを進めてきた結果、貨物拠点化が大きく進展している。

航空貨物取扱量の推移 (国際・国内合計)

(単位: トン)



過去最高を記録

◆国際貨物取扱量順位

順位	空港名	取扱量
1位	成田空港	2,197.3千トン
2位	関西空港	753.6千トン
3位	羽田空港	368.6千トン
4位	中部空港	117.3千トン
5位	福岡空港	25.6千トン
6位	北九州空港	15.1千トン
7位	新千歳空港	6.3千トン
8位	小松空港	4.9千トン
9位	那覇空港	1.3千トン
10位	鹿児島空港	0.3千トン

貨物拠点化推進強化期間

1 これまでの取組みによる貨物事業の現状

- 大韓航空による国際貨物定期便の就航(世界120都市のネットワーク、週4便維持)
- UPSによる国際貨物定期便の就航(世界220の国・地域のネットワーク、週5便)
- 令和4年度国際貨物取扱量は15,121tで全国第6位
- 輸入貨物取扱い開始、門司税関北九州空港出張所の新設
- 第2国際貨物上屋の供用開始

2 令和5年度貨物事業の主な取組み

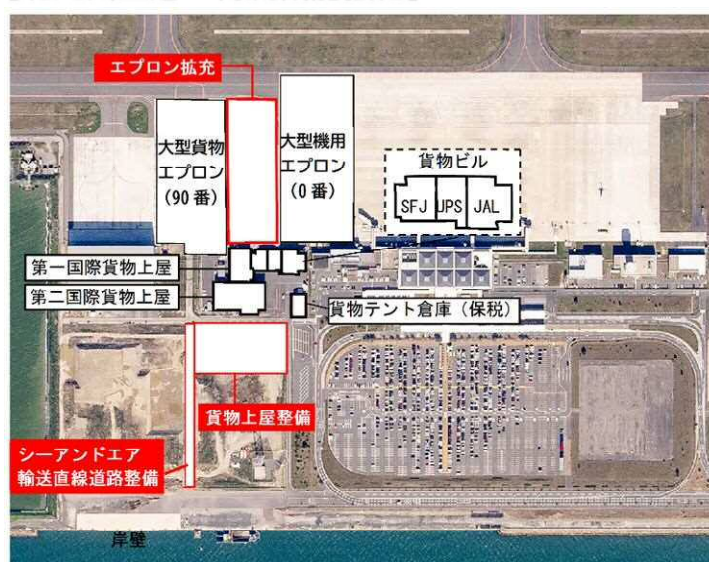
(1)ハード面(機能強化)

- 滑走路延長事業の新規事業化
- シーアンドエア輸送直線道路整備
- エプロン拡充
- 貨物上屋の整備(北九州エアターミナル)

(2)ソフト面(路線誘致・集貨促進)

- 集貨促進(欧米向け集貨助成の拡充)
- 空港内通関体制構築の促進
- ヤマト貨物定期便の就航準備
- 北福連携「(仮)物流セミナー」の開催

【北九州空港の物流機能強化】



株式会社スターフライヤーの経営状況について

1 令和4年度（2022年4月1日～2023年3月31日）決算【令和5年4月28日発表】

(1) 路線全体の輸送実績（国内定期便5路線）

路線	令和4年度	令和3年度	増減率
有償旅客数	1,167千人	677千人	+72.4%
座席利用率	68.2%	52.6%	+15.6pt

*有償旅客数には、全日本空輸株式会社への座席販売分は含めていない。

概況

- ・需要の回復を見極めながら積極的な運航に努めた結果、旅客数、座席利用率は前年度と比べ大きく増加。

■参考【令和元年度（コロナ前水準）と令和4年度の比較】

路線	令和4年度	令和元年度	増減率
有償旅客数	1,167千人	1,671千人	△30.2%
座席利用率	68.2%	72.0%	△3.8pt

（株式会社スターフライヤー決算短信により北九州市が作成）

(2) 業績

（単位：百万円）

	令和4年度	令和3年度	増減
売上高	32,275	21,131	+11,144
当期純利益	73	△4,986	+5,059
期末純資産	1,759	1,357	+402
現金等期末残高	5,388	5,722	△334

概況

- ・有償旅客数の増加により、売上高が大きく回復。
- ・費用面では、円安による機材整備費、原油価格の高騰による燃料費が増加したが、当期純利益は黒字化した。
- ・現金等期末残高は減少したが、同社は、「金融機関との緊密な連携関係を強めており、当面の資金繰りには問題ない」と判断している。

■参考【令和元年度（コロナ前水準）と令和4年度の比較】

（単位：百万円）

	令和4年度	令和元年度	増減
売上高	32,275	40,416	△8,141
当期純利益	73	△400	+473
期末純資産	1,759	6,754	△4,995
現金等期末残高	5,388	9,716	△4,328

（株式会社スターフライヤー決算短信により北九州市が作成）

(3) 令和5年度の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)（単位：百万円）

	令和5年度通期	対令和4年度増減
売上高	37,850	+5,575
当期純利益	1,230	+1,157

2 「中期経営戦略2025」（3ヶ年計画：2023～2025）【令和5年4月28日発表】

(1) 概要

○ポストコロナ時代を見据え、次の時代へ向けた計画

- ・国内線で経営基盤を確立し、次の飛躍を目指す
- ・最終年度（2025年度・R7）の営業利益は50億円を目標
- ・「収入拡大による利益創出と財務体質の健全性向上」と「環境に優しい航空機の新規導入」を柱として取り組む

(2) 主な事業

- ・北九州路線の需要創出
- ・レジャー・VFR（友人や親族への訪問を目的）旅行拡大
- ・イールドマネジメント（需要と供給に応じた価格設定）による単価向上

■中期経営戦略2025



項目	単位	コロナ前		コロナ禍			中期経営戦略2025		
		FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
売上高	億円	399	404	182	211	322	378	397	431
営業利益	億円	12	0	▲112	▲64	▲13	7	17	50

（単価：億円）



3 経営支援における市からの3つの要請事項について

(1) 本社機能を本市から転出させないこと

⇒ (回答)

引き続き北九州市に本社機能を置き事業運営を行っていく

① 令和4年度の実績

- ・大きな組織変更及び人事異動はなく、全従業員数に占める北九州事業所勤務者は7割以上を維持している。北九州市にて本社機能を維持する約束を果たしている。
- ・トレーニングセンター、格納庫も引き続き北九州空港内に設置している。また、市内サテライトオフィスを魚町に設置し拠点として活用している。

② 令和5年度の方針

- ・本社部門及び生産3本部は引き続き北九州空港内に設置し、現時点では転出予定はない。
- ・令和5年度も大きな組織変更及び人事異動の予定はない。

(2) 北九州空港を起点とした航空ネットワークの維持・更なる展開を図ること

⇒ (回答)

北九州空港路線の復便に向けて取り組むと共に、一層便利な航空会社として期待に応えていく

① 令和4年度の実績

- ・全路線では、上期は需要低迷が継続したが8月を境に回復に転じ、下期は需要回復傾向にあり12月から全便運航再開し、搭乗率は70%台で推移した。
- ・北九州路線は、ビジネス利用の回復が弱く、下期からの供給量増加に対して特に早朝・深夜便で需要が伴わない結果。今後適正な運航便数で収支や生産体制の改善を図るためダイヤ変更や曜日運航等の生産量調整が必要。

② 令和5年度の方針

- ・減少したビジネス需要の補完として、早朝・深夜を中心としたダイヤの見直し、ビジネス需要や新たな運賃施策を含む各種レジャー需要の喚起策に継続的に取り組む。
- ・令和5年度は、北九州空港を起点とした国際・国内チャーター便の運航を継続的に行うこと、首都圏から北九州への国内インバウンド推進のために二次交通と観光施設と連携した観光MaaSに取組み、北九州空港ならびに北九州市の更なる発展に努めていく。

(3) 再建の目途が立ち次第、羽田路線について更なるサービス拡充など、北九州空港の発展のために尽くすこと

⇒ (回答)

しっかりと経営再建を果たし、北九州空港利用者のより一層の利益に資するよう、様々なサービスの拡充を行っていく

① 令和4年度の実績

- ・市と連携したキャンペーン（前泊/後泊、ダイナミックパッケージ）や、「FLY WITH PET!」、タクシー（NearMe）とのMaaS連携、ジャパネットとの提携による機内誌・機内番組リニューアルなど、サービス向上に取り組んだ。
- ・アニメ「TIGER&BUNNY2」の活用や「日本新三大夜景都市」第1位北九州市夜景満喫キャンペーンなど、首都圏からの誘客により、北九州空港の認知度向上、利用促進に取り組んだ。

② 令和5年度の方針

- ・令和5年度は、引き続き、市と連携した利用促進に取り組むとともに、新たに「航空券定額制乗り放題サービス」の提供などにより、北九州市民をはじめ空港利用者のサービス向上に努める。



報道発表資料

市政記者クラブ

北九州経済・金融記者クラブ 同時発表

北九州市港湾空港局空港企画部空港企画課

2024年4月運航開始のヤマトグループ貨物専用便
就航前飛行訓練の運航路線に北九州空港が選定！

2024年（令和6年）4月に、ヤマトホールディングス株式会社（以下「ヤマトグループ」）と日本航空株式会社（以下、JALグループ）が、持続的な物流ネットワークの構築に向けて共同で貨物専用機の運航を開始します。

このたび、ヤマトグループとJALグループが、2023年（令和5年）11月から実施する運航乗務員の飛行訓練の運航路線の決定、その他進捗状況について発表しましたのでお知らせいたします。

これにより、来年4月の運航開始に先駆けて、新たに導入される貨物専用機を北九州空港の展望デッキから見学できるようになります。

記

【発表概要】

1 運航乗務員の飛行訓練

運航を担うJALグループのスプリング・ジャパン株式会社が、2023年11月下旬※1から実機（エアバス A321ceoP2F 型機※2）を使った飛行訓練を実施します。

（1）運航路線：成田空港⇒北九州空港⇒関西空港⇒成田空港（2回/日）※3

（2）想定スケジュール：※4

	区 間	出発時刻	到着時刻
1	成田 - 北九州	07：45	09：50
2	北九州 - 関西	10：25	11：25
3	関西 - 成田	12：00	13：25
4	成田 - 北九州	14：30	16：35
5	北九州 - 関西	17：10	18：15
6	関西 - 成田	18：50	20：15

※1 機体の改修状況によって遅れる可能性があります。

※2 最大搭載重量：28t/機（10t車約5～6台分）。

※3 1日あたり6区間を飛行。

※4 現時点での想定スケジュールであり、今後変更になる可能性があります。

2 機材の受領・改修状況（旅客機から貨物専用機への改修）

- ・3機すべて受領を完了。
- ・2023年5月8日からシンガポールで1機目の改修を開始。9月中旬を目途に改修を終了し、10月下旬に日本へ飛行予定。
- ・2機目、3機目はフランスにて駐機。

あたらしいことを、はじめやすい都市。
福岡県北九州市。

【問い合わせ先】

港湾空港局空港企画課（担当：高岡、永津）

TEL：093-582-2308 / FAX：093-582-0181

国際旅客チャーター便（韓国・務安線）の就航について

5月24日に韓国の航空会社ハイエアによる「北九州－務安路線」のチャーター便が就航し、歓迎イベントを行った。

なお、同社にとって、初めての国際線就航先として北九州空港を選択し、韓国・務安空港発のみのインバウンド・チャーターを行うもの。

1 チャーター便の就航について

(1) 航空会社

- ・株式会社ハイエア（韓国：2017年設立）
保有機材4機（ATR72-500）最大乗客数72名

(2) 就航先

- ・韓国 務安空港 ⇄ 北九州空港
※務安空港について
 - ・韓国南西部全羅南道（道庁：光州市）に位置
 - ・背後圏約300万人（全羅南道及び全羅北道）・24時間空港

(3) 就航便数

- ・週5往復（月・水・木・土・日）

(4) 期 間

- ・5月24日（水）～8月31日（木）

(5) 運航ダイヤ

- ・北九州着13：30 ※務安発11：40
- ・北九州発14：10 ※務安着16：00

2 歓迎イベントの実施

初便については、到着ロビーにて搭乗客の歓迎イベントを実施し、関係各自治体職員や空港関係者が横断幕による乗客の出迎えや記念品の配布を実施した。



【初便到着時の様子】



【韓国人入国者への歓迎のおもてなし】